

県議会NEWS

日本共産党 岡山県議会議員団

岡山市北区内山下2-4-6 岡山県議会内
TEL 086(226)7412 FAX 086(231)2187

2024年11月発行



森脇ひさき



すます伸子



氏平みほ子

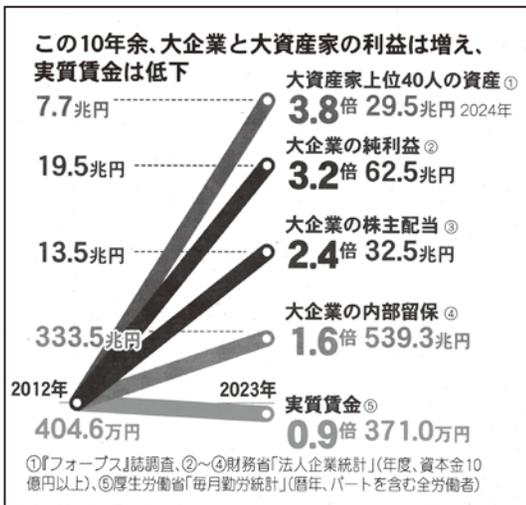
岡山県議会9月定例議会が9月5日から10月4日まで行われ、すます伸子県議、森脇ひさき県議が一般質問にたち、氏平三穂子県議が陳情採択を求め討論に立ちました。

森脇県議 一般質問

物価高騰で生活危機 賃金引き上げの直接支援を

物価を上回る賃上げを

岡山地方最賃審議会は7月、最低賃金を時給982円に引き上げるよう答申。しかし物価高に追いついていません。森脇県議は、さらなる賃金引き上げのために中小企業に対する直接支援を国に求めるよう質問しました。知事は「賃金支援を国に求めることは考えてない」と答弁。



森脇県議は再質問で左図を示し、大企業の利益は大きく増えており、内部留保の一部を中小企業に回すことで財源ができると訴えましたが、知事は、あらためて直接支援を否定しました。



選択的夫婦別姓制度の導入を

選択的夫婦別姓の導入に関する共同通信の調査で、全国の知事と市区町村長のうち78%(県内では69%)の首長が導入「容認」と回答。しかし伊原木知事は態度を明確にしていませんでした。森脇県議の質問に、知事は「制度に慎重な議論が必要」「副作用の調査も不十分」などと導入に否定的な考えを示しました。

知事の後援会ウソの収支報告

6月議会で知事は「検察の指摘に基づいて後援会の収支報告書を修正した」と説明。修正された報告書を見ると新たな疑問が出てきました。「迂回寄付」や「最初の選挙での父親からの提供資金」について質問しましたが、『法の理解不足』との見解を繰り返しました。新たに「借入金返済」金の疑問点も出てきましたが、「お金は動いていない」と知事。県民を欺くために虚偽報告していた疑いがますます強まりました。

パートナーシップ条例

同性婚も従来の婚姻と同等の権利を認めるパートナーシップ条例の制定について、知事は「啓発に努める」としつつ、条例については「環境が整ったところから広がっていくことが望ましい」と述べるにとどまりました。

マイナカード活用に反対

難病患者と精神障害の受給者証をマイナンバーカードで利用するためのシステム改修の予算(約5千万円)が出され、これに反対しました。

外国人労働者への支援

外国人労働者への支援施策のため超党派で検討してきた条例(外国人材等支援推進条例)が可決されました。

教員の多忙化解消へ やっぱり教員増員こそ

抜本対策棚上げの中教審答申

8月の中央教育審議会答申は、加配定数の改善にとどまりました。教職調整額の引き上げはあったものの、長時間労働の法的な歯止めとなる残業代支給のしくみは否定されました。

岡山県の現状は？

残業時間に関する森脇県議の質問に教育長は「令和元年度に対して、時間短縮に着実な成果が見られている」と答弁しました。

増える「持ち帰り」と土・日の出勤

しかし、「持ち帰り残業」については、「把握しながらとっている」と述べるにとどまりました。

また、土・日に従事した人の割合は、ほとんど改善がなく大幅に増えている校種もあることが明らかになりました。

教員定数改善こそ

森脇県議は「子どもたちにゆきとどいた教育をすすめるために、教職員の定数改善こそ必要」と求めました。

すま
す
議
一
般
質
問

物価高から暮らしを守れ

医療・介護の充実を

今年の医療・介護の診療報酬改定が、物価高騰に見合わない低水準であったために、賃金カットを行う現場もあるほど、深刻な経営困難にあえいでいます。国に対し抜本的な報酬引き上げを求め、知事に訴えました。知事は「物価高騰にたいし国交付金を活用した支援で対応したい」としました。

おコメの不足と価格高騰

主食の米が、店先から消えたり、価格が上がって、深刻な混乱と不安を広がっています。経済的な理由などで栄養を十分確保できていない子どもたちへの支援として、子ども食堂などに提供している備蓄米の無償交付と



に比聡平参議院議員と大平よしのが元衆議院議員が同行し日本共産党県議団として政府交渉をしました。(写真右端須増県議)



岡山県へ子ども医療費無料化の制度の拡充を求めてお母さん方が申し入れ

ブルーカーボン生態系の拡大を

気候変動対策

藻場や干潟の再生を

藻場や干潟を再生・拡大していくことは、豊かな漁場を確保していくことにとどまらず、ブルーカーボン生態系というCO2吸収源を広げることにつながり一石二鳥の取り組みです。

須増県議は、白石島でのアマモ再生の取り組みや、高知県須崎港の防波堤を利用した藻場の再生のとりくみ、山口県周南市の人工干潟のとりくみなどを視察調査し、ブルーカーボン生態系の拡大についての県の取り組みの強化をいたしました。

●水島港港湾脱炭素化推進計画を策定し、ブルーカーボン生態系の維持・拡大、人工干潟建設などを進めることを提案。

●Jブルークレジット制度を活用し、藻場の再生活動を持続可能にしていく提案。

●人工干潟の増設や潮止堤防での藻場の造成の取り組みを本件でも進めていくよう要望。

各担当部所は、ブルーカーボン生態系の拡大の重要性については認識し今後取り組みを検討するとのことでした。

ブルーカーボンとは、海洋生態系が光合成により大気中の二酸化炭素(CO2)を取り込み海底に蓄積される炭素のこと。CO2吸収能力は極めて高く、人為起源のCO2排出量の約30%を吸収するとされ、森などのグリーンカーボンの3倍のCO2吸収能力があり、しかも長期間貯留されます。



笠岡市白石島でアマモ再生の調査。水中ドローンでアマモの生息状況を視察



もに、県としても学校給食費の保護者負担軽減のため米高騰分の支援を求めました。教育長は影響が出れば対応するとしました。

看護学校の定員割れ問題

看護学生に給付性奨学金制度を

県内の看護学校の定員充足率は82%となり、今後の医療体制にも影響をきたす問題となっています。また、看護学生に対する民間調査では、7割の学生は奨学金を借りアルバイトをしなければ看護学校に通えないと答えています。

須増県議は看護学校運営事業補助金などの拡充と、看護学生に対し、県独自に給付制奨学金制度の創設を求めました。保健医療部長は、県として新たな支援は考えていないとし、国や市町村の支援策を周知するとしました。

分娩できる医療機関38か所「遠距離出産」に支援を

子どもの数が減少するなか、分娩から撤退する医療機関が後を絶ちません。岡山県では、現在分娩が出来る医療機関は38か所。そのうち7割が岡山市と倉敷市に集中し、さらに今年年度末に新見市は閉鎖が予定されています。須増県議は「遠距離出産」を余儀なくされている妊婦さんの負担軽減のため、検診や出産時の交通費や宿泊費の支援を求めました。知事は、「おかやま妊娠・出産子育て安心サポート連絡協議会」で検討を進めていくと前向きな答弁をしました。

9月議会 議案に対する各会派の態度 ※主なものを抜粋

【議案・発議】	共産	自民	民進	公明	無所属	結果
令和6年度岡山県一般会計補正予算(第2号)	×	○	○	○	○	○
岡山県外国人材等支援推進条例案	○	○	○	○	○	○
私学助成の充実強化に関する意見書案	○	○	○	○	○	○
○=可決 ×=否決						
【請願・陳情】	共産	自民	民進	公明	無所属	結果
全ての県議会議員・県職員が尊厳を守られ安心して働けるようにするため、ハラスメント防止条例を制定する	○	×	○	×	×	×
ブラッドパッチ療法(硬膜外自家血注入療法)に対する適正な診療上の評価等を求める意見書の提出	○	△	○	○	△	△
医療機関の事業と経営維持のための診療報酬の再改定と、補助金等の財政支援措置を求める	○	×	○	×	×	×
岡山県立笠岡工業高等学校再編整備に関する事	○	○	○	○	○	○
学校給食無償化を国に求める意見書	○	△	○	○	△	△
開かれた議会を実現するため、議会で審議された議案、請願・陳情に対する各議員の賛否を公開すること	○	×	○	○	×	×
○=採択 ×=不採択 △=継続						